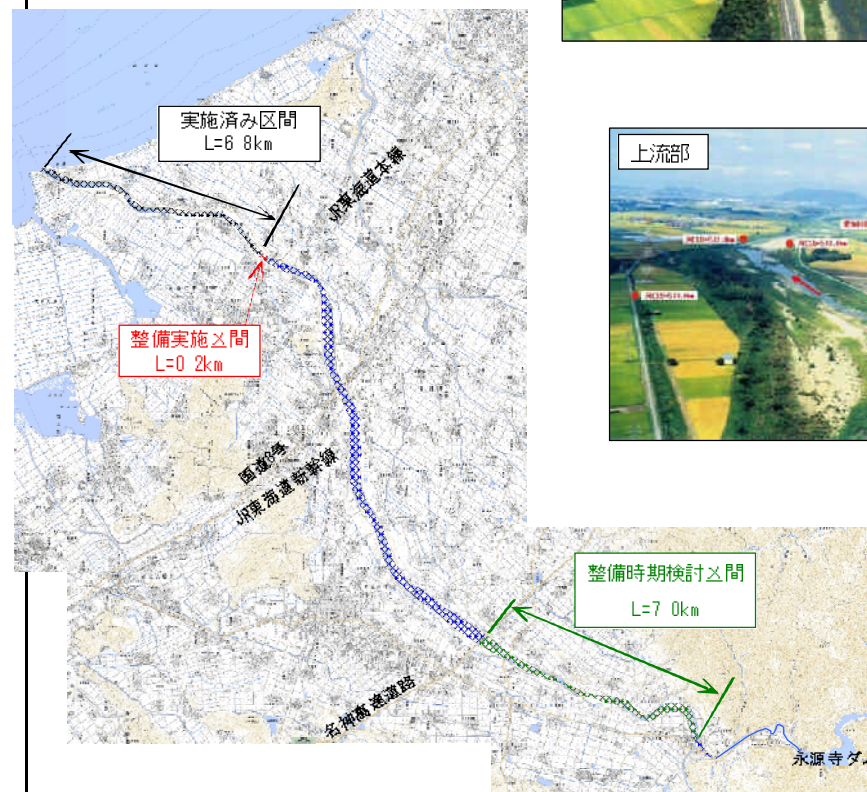


(治水事業の沿革)

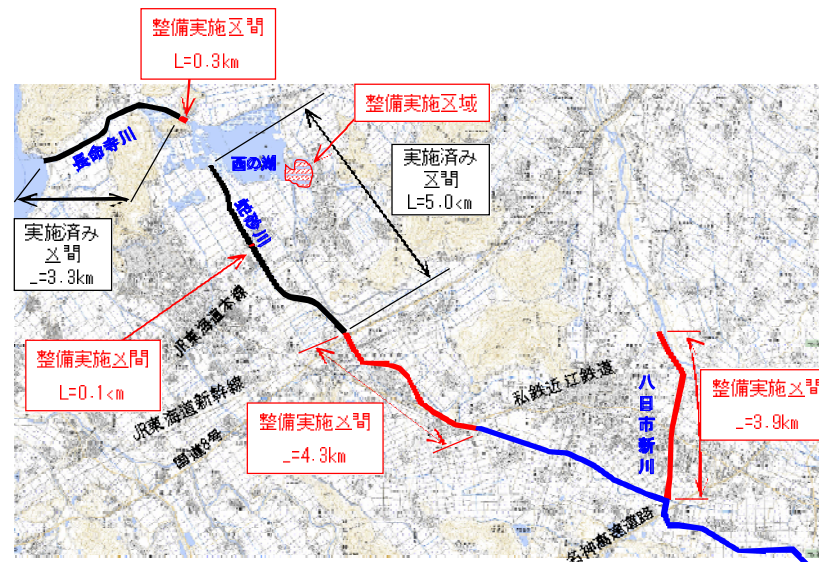
このような洪水の被害を防止するため、圏域内の各河川について災害復旧事業や災害助成(または災害勤労)事業により、護岸の復旧や河道の拡幅工事等が随時行われてきました。

愛知川の河川改修は、昭和25年から中小河川改修事業の一般工事、琵琶湖総合開発事業及び平成2年からの災害助成事業により、河上から栄見橋(2km地点)の区間においては50年に1回程度の降雨による洪水に対応できる河道整備が行われました。その後、上流部へと順次河川改修を進め、現在に至っています。



改修工事経過平面図

長命寺川(蛇砂川)は、古来より有効利水が図れるよう数本の農業用水路を繋ぎ合わせて作られてきたために、下流ほど川幅が狭く、さらに河道延長が長い河川です。この河川の治水対策については、河川改修を行う場合、下流ほど用地の提供が多くなり、また河道延長が長いことから上流まで改修が到達するまでに長期間を要します。そのため、流域に關係する市町の合意のもと、上流部における平成川、中流部における八日市新川や山本川の分離・改修、下流部では長命寺川・西の湖・蛇砂川の改修が計画されました。この計画は、昭和48年に中小河川改修事業により着手され、現在に至っています。この中で、平成川については平成14年に完成しています。



改修工事経過平面図



長命寺川(渡合橋~下流を撮影)



蛇砂川(近江八幡市安土町中屋付近)



八日市新川(東近江市野村町)

日野川の河川改修は、昭和34年の伊勢湾台風の影響による災害復旧助成事業と日野川ダム事業が進められてきました。この河道改修計画は、河口から近江八幡市浄土寺町(約16km)について破堤部の復旧、堤防の嵩上げや腹付け、低水路屈曲部の法線是正等が行われました。また、日野川ダムは、昭和28年度から洪水調節を目的として計画され、昭和40年度に完成しました。さらに、平成2年の災害を契機とした災害復旧助成事業により、河口から近江八幡市野村町(約2.82km)について、河積の拡大と護岸整備が行われました。しかし、それより上流については昭和34年災害以降、出水時の応急処置的な護岸整備しか行われておらず、護岸の老朽化とも相まって、近年の出水時には漏水を繰り返していることから、洪水位の低下及び堤体の強化等の抜本的な対策が早急に望まれるところです。

(治水上の課題)

災害復旧や計画的な改修により、圏域内の河川の改修を進めています。その中でも、平成2年8月の台風18号の洪水により愛知川及び日野川で多数の家屋浸水など大きな被害が発生していること、その後の平成8年8月の台風26号においても長命寺川(蛇砂川)でも大きな被害が発生していること、想定氾濫区域や流域において急激な市街化の進展や資産の集中が見られることから、引続き洪水被害の防止対策が必要です。また、長命寺川(蛇砂川)の西の湖周辺は、低平地が多く平成7年5月には降雨による琵琶湖水位の上昇により、江の島地先で浸水被害が発生していることから、琵琶湖の背水に対する治水対策も必要です。

また、圏域内の多くの河川は洪水到達時間が短く、洪水の予測が困難であるうえ、近年、全国各地で気候変動による集中豪雨が頻発していることから、圏域内の河川の施設能力を上回る洪水(以下、超過洪水という。)が発生する確率が増大しています。

こうしたことから、県民の命を守り壊滅的な被害をできるだけ少なくするため、これまでの川の中の対策に加え、自助・共助・公助を組み合わせ川の外での対策を推進し、効果的に治水安全度を高める取り組みを進めていく必要があります。

改修工事経過平面図

